

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
理気剤 行気剤 4		
きんれいしさん 金 鈴子散	疏肝泄熱・行気止痛	川棟子・延胡索各9g 粉末にし1回9gを酒か湯で服用する。水煎服用してもよい。
聖恵方	<p><主治> 肝鬱化火 胸脇部の脹った痛み、腹満、腹痛、月経痛などが間欠的に生じ、口が苦い、舌質が紅、舌苔が黄、脈が弦数などを呈する。</p> <p><病機> 肝鬱気滞、気鬱化火による疼痛である。 肝気が鬱し疏泄が失調して気機と血行が渋滞するために、胸腹脇肋が脹って痛んだり月経痛が生じる。肝気は情志の変化の影響を受けやすいので、情緒の変動に伴って、疼痛が緩和したり増悪したり間欠的に生じる。肝鬱化火しているので、口が苦い、舌質が紅、舌苔が黄、脈が弦数を呈する。</p> <p><方意> 肝気を疏通し肝火を泄して、気血を調暢する。 主薬は川棟子（金鈴子）で、疏肝行気し気分の熱を泄して止痛する。活血行気の延胡索は血滞を除き止痛して、川棟子を補助する。全体で疏肝泄熱、行気活血、止痛の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（金鈴子散）は気鬱血滞による諸痛に対する基本方剂である。 加減法 月経痛には、香附子・丹参・紅花などを配合する。 疝気痛には、橘核・小茴香・呉茱萸などを配合する。</p>	